

こまぼんのなるほど！ みなと講座

～港湾・空港のことをもっと知っていただくために～



ぼくの名前は「こまぼん」。小松島港湾・空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳としっぽが目印。一般公募によって名前がつけられたんだ。

小松島市再活性化を目指して～民産官学が協力してつくる未来～ 執筆者 小松島市商工観光課

小松島市では、地域社会の課題解決に向けてオープンに取り組むべく、国立大学法人徳島大学や地域の意欲ある事業者、学生等と連携し、民産官学の垣根を越えて「こまつしまリビングラボ」という取組を行っています。

その取組の一環として、「港を玄関口とした地域経済の再活性化」をテーマとし、昨年10月7日に寄港した「にっぽん丸」乗船客へのインタビューとアンケートを実施し、36名からの回答が得られました。その内容を分析したところ、多くのクルーズ船乗船客は「その地域ならではの」「非日常的な「体験」を求めていることや、高齢者が寄港地に降り立った際に、中心市街地へのアクセスを容易にするためバスやタクシーを手配する等、交通手段の整備に取り組んでいく必要があることが分かりました。また、寄港地での歓送迎についての重要性についての意見も寄せられました。

このような取組を通じて、小松島市はクルーズ旅行で寄港していただいた方々に素敵な思い出をつくっていただけるよう努めてまいります。



リビングラボが定期的に行う「ワークショップ」の様子



船外アンケート配布実施状況

徳島県排出油等防除協議会排出油防除訓練他 ～非常時に備え他機関と連携～

「徳島県排出油等防除協議会排出油防除訓練」とは、一定量以上の石油又は高圧ガスを大量に集積している区域とその周辺海域において、油の流出や火災が発生したと想定し、陸上と海上で実施する訓練のことです。この訓練に、当事務所所有の港湾業務艇「ひのみね」、海面清掃兼油回収船「みずき」が参加しました。

海上訓練では、周辺海域に原油約200キリットルが流出したことを想定し、海上保安部や漁業協同組合等の他の訓練参加機関と協力しながら、海上交通規制や浮遊油の回収の訓練を実施しました。

このような訓練を重ねることで、災害時対応の迅速・円滑化を図り、関係機関と密接かつ効果的な協力体制を確立していくことが重要です。今回の訓練を通じ、非常時に備えた訓練の大切さをより一層感じました。

今後も訓練を重ね、災害時に備えた取り組みを推進してまいります。



訓練に参加した港湾業務艇「ひのみね」(左)と海面清掃兼油回収船「みずき」(右)



浮遊油を回収訓練する「みずき」 手前は海上保安庁の船